

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800807		
法人名	社会福祉法人 蘇南会		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	熊本県上益城郡山都町北中島2679-3		
自己評価作成日	平成21年11月9日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本県熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境豊かで、ホームの共有スペースは狭いが戸外の環境を日常的にケアに生かすことができる。また、職員は個々の利用者を理解することで、利用者の力や得意なことを日常生活にスムーズに生かすようにしている。職員のほとんどは介護福祉士取得し、質の高いケアに努めている。家族会も協力的で、外出支援など利用者の支援体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関連の施設が集まった“山都福祉村”は、長く地元へ貢献・信頼を得ている特別養護老人ホーム(矢部大矢荘)を母体とし、山里の四季を思う存分味わい楽しめる環境にある。経験豊かな管理者・ホーム長のもと、手を出すだけの介護ではなく、待つ介護・見守る介護により入居者の残存能力を引き出し、保たれていることが、平均年齢の高さにも関わらず、自立歩行・排泄など笑顔と共に表れている。又、家族からも信頼ある職員のチームワークの良さは、排泄の失敗時の対応一つにしても職員一人ひとりが周りに気づかれぬ配慮を何気なく行うことで、プライバシーや尊厳を大切にされた支援は入居者の自信に繋がっている。家族とホームの良好な関係は日常的な訪問・行事への協力・居室環境にも表れている。ひだまりを感じる入居者と職員の温かな関わりが心に残るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作上げた理念があり、常に念頭において、実践している。	全職員で作上げた三項目の理念は、“その人らしく個々に合った居心地良い環境・地域の中で安心して暮らす喜び”を盛り込み、毎月職員会議での確認や年度末に改めて周知徹底を行い共有しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を活用して、地域の行事や活動に参加し、できる限り交流を深めている。	広大な敷地には美術作品の設置やグランドゴルフも楽しめ、地域の人々や小学生の遠足の場所に利用されている。又、保育園や小学校の運動会に出かけたり、福祉村夏祭りでは地域銀行や郵便局にポスター掲示の協力を依頼する事で多くの参加者に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や団体の会合に参加し、認知症や認知症の人についての理解について話す等、事業所で培った知識や経験を地域に役立てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、委員の方々には認知症についての理解を深めてもらっている。また委員とは地域とのパイプ役として、事業所運営や地域交流を深めるために連携し、サービスに生かしている。	運営推進会議はメンバーの層も厚く二ヶ月に一度の開催も定着している。認知症に対するミニ講話や、入居者の役割(台所手伝い・掃除など)や好きな事を楽しんでいる姿、家族との交流などホームの日常をスライドにした上映は参加者との関係を深めている。又、社協や民生委員さんからの情報で、“おたっしや会”や“健康フェスタ”の参加に繋がっている。	家族会で会議内容の報告は行われているが、参加されていない家族に対しては議事録の発送などにより共有化されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修その他、些細な事でも日常的に連携をとり、協力関係を築いている。	担当者とはスプリンクラーの設置に関する相談や、日常的に連絡を取り合い情報交換を行うなど良好な関係が構築されている。又、ホーム長も町主催健康作りの講師を務めるなど地域貢献につなげている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束に関する行為について研修をしており、身体拘束は行っていない。	日中は施錠せず入居者は敷地内の散歩をしたり、植物の手入れを楽しんでいる。又、身体拘束に関する研修会の実施や、会議の中でも言葉かけによる拘束に対しては事例を挙げて話し合うなど尊厳を大切にケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待に関する研修をしており、認知症ゆえに、虐待が見過ごされることがないように、日々、身体の傷や内出血等についても原因を追究するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	全職員が各制度について十分理解しているとは言えないが、今後研修等を利用して学び、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、利用者・家族の思いを理解しながら、不安なく納得できる様な説明をしている。制度改正や報酬加算等についてもその都度説明して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で苦情・要望等を聞く機会を作っている。また、電話や面会時・苦情受付箱を利用して運営に反映させている。そのほか家族との会話や言葉から思いを汲み取り、ケアに反映させる様に努力している。	家族会や意見箱の設置で意見・要望の収集を図り、苦情・相談受付書を作成し些細なことでも記録に残し運営に反映している。廊下の空調設備を整えたり、職員の名札の要望に対して玄関に職員紹介を写真付きで掲示するなど改善を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の際、全員が遠慮なく自分の意見を言えるようにし、運営に生かしている。	職員会議では全員が一人ずつ意見を述べる機会を作っている。ケアに関しては迅速な対応を心がけ、廊下の空調機設置や入居者によってはADL低下から転倒に繋がらないよう二階への移動を階段からエレベータへ変更し安全面に配慮した改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長始め、他の職員の業務に対する熱意・努力は認めている。職場環境等については職員会議で意見を聞き改善するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には積極的に参加するように奨励している。また業務関係の資格取得には休暇を利用できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の宅老所グループホーム連絡会や上益城部会への参加、また町内の事業所とは日常的に連絡を取り合い、連携している。他事業所の良い面はお互いケアに生かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と個別に面談する時間を設けて、本人の希望や思いを受け止めるようにしている。本人の見学や希望により体験等も受け入れ、入居前の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、家族の思いを受け止め、不安を取り除きながら、事業所や職員に対する信頼感を持ってもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談状況を整理し、すぐに事業所では対応できない場合は、関係事業所や行政・ケアマネとの連携をとっている。初期のサービス導入においては、本人・家族の思いを理解し、不安を最小限にできるよう柔軟なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、人生の知恵や慣わしを日常的に話したり聞いたりしながら、共に支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話連絡、日常の面会時に利用者の様子などを伝えながら、職員の思いを理解してもらい、また家族の思いも理解してもらうようにしている。本人と一緒に支えあう関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の行きつけの美容室へ行ったり、地域の行事・イベント等に参加し、顔なじみの人と会える機会を作っている。	行きつけの美容室や墓参・寺参りなど家族の協力も得ながら支援している。又、地域での行事に参加し顔馴染みの方との交流に努めたり、お盆・正月の帰省やホームへの来訪など関係が途切れない支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や個性を理解し、利用者同士がうまく関わりあえるように、職員がさりげなく仲介や調整をし、笑いあって過ごせる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居して、他施設や医療機関にいる利用者にも、入居者や職員が時折面会に行くなど、関係性が途切れないようにしている。家族へもできるだけ声をかけ、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時々に応じて、本人の思いを聞き、希望などを把握するように努めている。把握困難な場合でも、思いを汲み取ったり、家族からの情報収集により推し測るようにしている。	アセスメントで得た情報や日々の会話、入居者の表情から思いや意向の把握に努めている。家族の来訪も多く話しやすい環境作りを心がけ、本人や家族との対話を大切に信頼関係を築いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族の面会時に、折に触れ、これまでの暮らしぶりやエピソード等を聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれのできることでできないこと、わかることわからないこと等を、日々の変化も踏まえながら、観察や会話の中から職員全員が把握するようにしている。また気づきの共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、利用者の意見を取り入れたり、家族との関わりの中で要望を聞いたり、職員全体の意見を反映して介護計画を作成している。状況に応じた見直しについては、記録等でまだ努力が必要と思われる。	入居者を担当制とし、アセスメントから大まかなプランを立案し、全職員で話し合いや確認を行ない最終的に介護計画作成者がまとめ上げ六ヶ月毎に見直している。状況に応じた見直しのプラン作成については課題としている。	随時の見直しについては記録等を課題としており、現状に即したプランがケアに繋がることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあった時、変化があった時等、それぞれの職員が個別記録に記入したり連絡ノートに記入したりして、職員全員が情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のその時々状況やニーズに応じて、できる限り柔軟な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化的行事やコンサート・祭り等への参加はしている。ボランティアで2ヶ月に1回程度、ハーモニカ演奏等してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を第一に考えているが、ほとんどの方が協力病院を希望されている。定期受診・緊急受診は事業所で行い、専門医の受診については、基本的に家族同行であるが、できない場合は事業所に対応している。	希望に応じた係りつけ医を支援しているが、協力医(母体医療機関)の希望がほとんどである。ホームで受診対応を支援し、結果報告や、隣接施設の医師が何時でも診察可能な状態である事が入居者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアで気づいた情報は、看護職に伝達・相談し、不在時も常時連絡できる体制がある。また、関連病院や併設施設看護師とも日常的に連携し、受診・看護等支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当福祉村内に協力病院があり、日常的に連携がとれている。利用者や家族も安心して受診・入院できる。日常的になじみの病院職員がいて入院時も退院に向けた支援ができる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、事前指図書を作成し、関係者で方針を共有している。地域との関係者については特に例はない。	入居時の事前指図書は本人の意志を確認し記入している。重度化した時点で家族も含め再度話し合いを行い、母体病院や併設施設との連携を図りながらホームとして必要に応じた支援に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の研修や訓練は行っているが、全ての職員が確実な対応ができるとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の定期的火災訓練の他、災害時の研修等行っている。非常時の関連施設との協力体制や地域の運営推進委員との連絡体制はある。	連絡網の中に地域委員の名前も含まれており協力体制が確認されている。火災や風水害の研修会の実施や、今年度は定期訓練の他に関連施設の協力を得て独自の夜間避難訓練が行われた。	夜間訓練の課題も含め、家族への災害対策の取り組みの報告を行う事により更なる安心に繋がることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊厳の気持ちを忘れず接するよう、職員会議等においても意識して取り上げている。また、日常のケアにおいても、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような配慮をしている。	入室の際のノックや声かけによる確認を徹底し、入浴・排泄時や日常のケアも尊厳に配慮した言葉かけを行い、呼称も入居者や家族に確認し対応している。人生の先輩として学ぶことを職員は喜びとしておりユーモア溢れる会話に入居者と職員の信頼関係が窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個別性を把握し、選択したりさりげなくその人らしさが出せるような場面や機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の意向も一人一人違うため、できるだけ自由に自分の好きな一日の過ごし方をしてもらっている。自由な散歩や入浴の回数等も個々に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みや習慣に合わせた支援や、お出かけや催しの際に、外出着を着たり日頃から化粧を楽しんでいる。時にはマニキュアをつけたりして気分転換の機会になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れり家族から頂いた野菜を使った料理をしたり、食事の準備や後片付けも一緒に行っている。時々を外食したり個別の外食などをして、変化や楽しみごとを作っている。	関連施設の管理栄養士の作成した献立を基本としているが、畑の野菜や差し入れ食材を利用し入居者の希望も取り入れながらメニューを変更している。入居者も準備や片付けなど一緒に行い職員も検食や持参した弁当と一緒に広げている。入居者や家族の思いのこもった個々の茶碗やランチョマットの話など楽しく・和やかな食事の時間であった。時には外食や天気の良い日はおにぎりを作って広場での食事も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の献立は併設施設の管理栄養士に立ててもらい、栄養バランスに配慮している。また、毎食の食事摂取量についても記入し、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、毎食後義歯洗浄や歯磨き・うがいなど、声掛けや介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツを使わないように配慮し、誘い排尿している。意思表示が十分できない方は、本人の排泄間隔を把握することにより支援している。はくパンツを下着とパットにする等、個別に検討し気持ちよく排泄してもらえるように配慮している。	個々の排泄パターンを把握し、時間や活動の区切り・仕草でタイミングよく声かけ誘導している。夜間もポータブルトイレは使用せず、声かけ・自立と個々に応じた支援である。居室にトイレが設置され個室でゆっくり排泄できる環境も自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、カスピ海ヨーグルトを食べてもらったり、個々に応じた運動を勧めている。朝一番に牛乳を飲んでもらうなどしてなるべく下剤を使わない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数や、介助浴や見守り浴等、個々の希望や状態に即した支援をしている。拒否がある方には、声掛けにも配慮しながら清潔保持に努めている。	回数や時間等介助・見守り浴を個々に応じ支援している。入浴拒否の方へも無理強いせずタイミングよく声かけや時間をずらし対応している。家族や職員の持ち寄った菖蒲・柚子湯など楽しい季節風呂も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣や個々の疲れ具合等に応じて、安心して休息できるようにしている。寝巻に着替えてもらい、寝つけない方に対しては話し相手になったりして安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人毎に保管し、必要時にすぐ確認するようにしている。処方内容が変化した場合は連絡ノートに記入し、全職員に周知している。血圧の薬の変化の場合は、しばらく血圧測定する等して病院との情報交換・連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の得意なことや知恵や経験などを十分生かせるよう、発揮できる場面を日常的に取り込んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の希望等に応じて、臨機応変に野外食や外食や買物・ドライブ等をしている。家族にも協力していただき、墓参りや個別の旅行などに外出されている。	入居者は広く安全な福祉村の中を職員の見守りの中自由に散歩したり花を摘んだり落ち葉を拾ったり四季を楽しんでいる。ドライブを兼ねた買い物や、福祉村の中で行われるコンサートや夏祭りへの参加や、外食・温泉への外出など家族の協力・参加を得ながら多くの外出の機会を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望に応じて預かり金があり、個別に管理し、随時収支内容を確認してもらっている。可能な方は小額所持してもらい、買物時は本人が財布から支払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の公衆電話から自由に電話でき、希望時は支援している。身近な人に年賀状を書いたり手紙を書いたりされることに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をさりげなく飾ったり、利用者の写真や興味ある物を壁に貼るなどしている。狭いリビング兼食堂のため、食事の準備も見え、食事の匂いを感じたり味見したり、日常的に心地よい刺激がある。	リビングからは広場が望まれ四季を感じながらの日常である。四季の花が飾られた居間兼食堂には寛ぐソファが設置され、定期的に校区の防災無線が流れホームののどかな日常を感じ取れる。手入れの良いホーム内は臭気もなく、清潔に保たれていることが居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや玄関・2階のコーナーなどに、いすやテーブル・本などを置き、少人数座って、会話ができるようにしている。ホーム周囲の戸外にも休める場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、使っていた家具や小物や写真等を設置している。利用者に応じて、畳やじゅうたんも使用している。	使い慣れたタンスや帽子・時計・仏壇・冷蔵庫・写真の掲示など、どの居室も家族の協力・関わりが窺える。職員もコタツやカーペットの位置など入居者の歩行状態を常に確認し安全で居心地の良い居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の理解度や能力に応じて、使い方の張り紙等をして力を発揮できるようにしたり、見守りや声掛けをしてできることを支援している。洗濯や掃除・後片付け・お客様の接待等、してもらっている。		